

今年も大盛況！ リサイクルマーケット



「もとめる人」から喜ばれた多くの品々

宗像子育てネットワークこねつが、11月3日の子どもまつりでリサイクルマーケットを開催。子ども服やおもちゃなど「もらってうれしい」物を無料で提供しました。今年も、2,000点以上の子育て関連用品が集まり、ほとんどの品物が「もとめている人」に引き取られました。

開催5年目となる今年も、開場前から行列ができるほど大盛況でした。利用者からは、「駐車場や会場の混雑で残念ながら参加できなかった」との声もあり、今後は、よりたくさんの方々に利用してもらえるよう、リサイクルマーケットを拡大し、開催方法を改善していきます。

これからも、物を大切に使い、限りある資源を有効活用し、地球に優しい環境を子どもたちに安心して引き継げるよう、リユースの輪を広げていきたいと思えます。みなさんの善意で成り立っている事業です。協力ありがとうございました。

問い合わせ先 環境課 ☎(36)1421

11月28日現在、次の子育て・教育関連用品を「もとめている人」がいます。

- 幼児用衣類(80~90) ● 男児用衣類(100~110) ● 男児用靴下(9~15cm)
- 抱っこひも ● ベビーキャリア(背負い子) ● ジュニアシート(9kg~、背もたれ付き)
- ベビーサークル(ゲート) ● ベビーフェンス(ゲート、幅20cm対応で扉式)
- ハイローチェア ● 自転車用チャイルドシート ● ベビーマット ● プレイマット ● ジョイントマット ● 赤ちゃん用の椅子、机 ● 子ども用パイプ椅子
- 子ども用ミニテーブル ● 子ども用ステップ ● 子ども用自転車(14インチ) ● ベबीジム ● 絵本

● 申込必要事項
①住所②氏名③電話番号④用品名

● 申込先
宗像子育てネットワーク「こねつ」
▽ハガキ=〒811-3437/久原180 (メイトム宗像内)
▽メイトム宗像内の受付ボックス
▽FAX(36)3741
▽Eメール konet_munakata@yahoo.co.jp

*上記の「用品をゆずる人」は、
☎080(4317)2524での申込可
ただし、毎週水・金曜日(祝日を除く)の10:00~13:00
*携帯電話、携帯メールを利用の場合は着信許可を

問い合わせ先 環境課 ☎(36)1421

農林業センサスに
協力をお願いします

● 日程 12月中旬
● 内容 平成27年2月1日(日)を基準日とした農林業の調査である「2015年農林業センサス」を実施

*この調査の目的は、日本の農林業の実態を明らかにし、農林業施策の基礎資料を得ること

対象 農林業を営んで

いる人 対象者のもとに調査員が訪問。同調査への回答に理解と協力をお願いします

問い合わせ先 経営企画課
☎(36)1192

第23回釣川クリーン作戦 みなさんのおかげで きれいになりました

市とむなかた「水と緑の会」や、各地区コミュニティ運営協議会などで構成する実行委員会が実施する釣川クリーン作戦。23回目を迎えた本年度も無事に終えることができました。

今回も、市民のみなさんや事業所など多くの参加があり、たくさんのごみが集められ、よりきれいな釣川になりました。

ありがとうございました。釣川の水は、市民のみなさんの飲み水です。この命の水をいつまでもきれいに保つためには、みなさんに理解を深めてもらうことが大切です。

釣川クリーン作戦実行委員会は、これからも宗像の素晴らしい自然を守り、ごみのない環境づくりに取り組みますので協力をお願いします。



みなさんの協力でたくさんのごみを回収できました

平成26年度第2回宗像市障害者自立支援協議会を、11月14日に開催しました。今回は、第4期宗像市障害福祉計画(案)について協議を実施。この計画は、平成27年度から同29年度までの市の障がい者施策に関する行動計画として策定するものです。

協議会では、現在の課題と解決に向けての施策案について説明をし、委員から、さまざまな意見が出されました。

● 主な意見
▽生活支援では、福祉サービスを利用するのに「何でも相談できる所があるといい」と、相談支援事業の周知と充実を求める意見

▽就労については、「障がいのある人が仕事を長く続けられるような支援が必要」と、障がい者の就労支援と雇用する企業の、障がいへの理解と支援を求める意見



さまざまな意見が出された協議会

今後、市では、今回の協議会の意見を踏まえて、この第4期計画(案)を策定し、2月ごろにパブリック・コメントを予定しています。

問い合わせ先 福祉課障害者福祉係
☎(36)3135
FAX(36)5856

宗像市 障害者自立支援協議会だより 第19回

さまざまな意見を
反映し新たな行動計画を策定

▽防犯・防災については、「地域に障がい者のことを知ってもらふことで、安全・安心に避難できる体制

▽障がいへの理解では、「教育分野と連携して、障がいの理解についての事業を実施したい」「子どものころから障がいに関する教育を受けることで、理解が深まるのではないかなど、さまざまな分野と連携して障がいについての理解を求める意見

▽障がいへの理解では、「教育分野と連携して、障がいの理解についての事業を実施したい」「子どものころから障がいに関する教育を受けることで、理解が深まるのではないかなど、さまざまな分野と連携して障がいについての理解を求める意見

